

## V. 特記事項

### 1. 聴覚障害者への情報保障の取組み

本学には4人の聴覚障害者が在籍している（2019年度2人入学、2020年度2人入学）。本学は比較的小規模な大学であり、聴覚障害者への情報保障体制が十分であると言えない状況であったが、令和元（2019）年度に2人の入学者への受け入れ体制を整備するにあたり、制度・組織面と設備面から重点的に情報保障体制を構築した。具体的には、障害学生支援に関する基本方針の策定と公表、入試における配慮内容の公表、支援内容・支援体制・支援事例の公表を行った。特に、情報保障の面では、従来の聴覚障害者支援は筆記によるノートテイクや手話通訳が主流であるが、一般的な授業の際に、ICTシステムを整備することによって、支援の実効性と効率を向上させることが可能になった。具体的なシステム面の整備として、音声認識ソフト「UDトーク」を導入し、全教室からUDトークを利用できるよう設備を改修し、さらにオンライン講義や動画教材にも対応可能とした。また、UDトークによる音声の誤認識の修正をリアルタイムに行うため、学生スタッフの支援体制を整備し、健常学生による聴覚障害学生を支援する体制を構築した。一般的にノートテイクは作業負担が大きいことから担い手が集まらないことが問題とされていたが、本学の取組みでは、学生が音声の誤認識をタイピングで修正するという比較的簡易な作業とすることが可能になったため、約40人の学生がノートテイクとして活動をしている。

聴覚障害者への情報保障の状況、さらに大学生活の状況について、「障害者学習生活支援委員会」が聴覚障害学生らと定期的に面談を行っており、本人らからは本学の情報保障について十分満足できるものという評価を得ている。今後、情報保障サービスの品質管理と質向上に向けて継続的に活動を行っていく。

【資料】 <https://www.kaetsu.ac.jp/disclosure/support4/>

### 2. FD・IR推進室

FD・IR推進室はFD・IR委員会が拡張・整備する形で設置された。大学の教育整備を行うFD機能とデータを管理・分析するIR機能の両方をもたせているところに本学の特徴がある。内部質保証システムにおけるPDCAサイクルは内部質保証組織によって行われている。そのサイクルは、Plan：中期計画、3ポリシーの具体的推進プラン、Do：教授会・委員会・事務部門での実行、Check：アセスメント・ポリシーによるチェック、Action：FD/SDとなっており、これらのPDCAサイクルは1年周期で行っている。以上の全学的なPDCAサイクルの実施組織としてFD・IR推進室ではより短いサイクルでPDCAを実行し、上部組織に報告・共有・改善を行っている。

以上の目的を達成するためにFD機能とIR機能の両方を同一組織に持たせ、評価、分析、行動までをスムーズに行うことができるような組織になっている。アセスメント・ポリシーに基づいてIR機能としてデータを取得、分析・評価を行い、他組織と共に改善するための行動にまとめ、FD機能として改善を行っていく。例えば、学修データの活用時には、GPA等のデータをIR組織として他組織と共に取得・分析を行い、全教職員が確認できる形でワークシートにまとめ、教授会で共有すると共に、改善施策としてワークショップを行うことで教学施策での反映を行っている。以上のように短いスパンでPDCAサイクルを回し、評価・分析・改善を行う組織としてFD・IR推進室がある。